

## — 随 想 集 —

私 と 読 書  
— 高松宮様のご指導 —

平 間 洋 一

昭和三十八年度練習艦隊の副官をしていた時、出港間際の司令官を海軍兵学校同期生の高松宮様が突然来艦した。そして司令官公室でニヤニヤしながら「おい、セサ（先任参謀のこと）！長い航海なので気が立つこともあるだろうが、幕僚が頭に來たらおしまいだ。この本でも回覧して気を静めさせろよ」とヌードが一杯の外国の雑誌を風呂敷から出された。

私もニヤニヤすると「おい、副官、おまえは若いのだから別だ。私が今でも感謝しているのは戦艦比叡の砲術士をしている時に、三文雑誌を私室で読んでいたら副長から『殿下、そのような本を読んではいけません。安い本を読んでいたら人間まで安くなります。高い本をお読みなさい。高い本は立派なことが書いてあり、それに難しいからすぐ眠くなり睡眠剤としても宜しいでしょう。そして高いノートに読んだ本の要点をまとめるのです。高いノートをお使い下さい。高いノートだと途中で止めるのも、また汚く書くのもできず内容的にも立派なものになります。』、『高い本を読み、高いノートに書け』と海軍で習ったが、今でも私はそれを実行している。お陰で専門書を読むのも抵抗なく、敬遠することもなく親しめるようになった。君は若いのだから私が受けた注意を守り、遠洋航海中難しい本を何冊か買って読破してもらいたい。」とのご注意を受けた。以後、私は自衛隊在職中常に高い本を買って高いノートにその要点を書いてきたが、それが私の教養を高め歴史への関心を深め、自衛隊定年退職後に母校で戦史の教官として迎えられた遠因ともなると、今でも殿下のご指導に深く感謝している。

なお、防衛大学校図書館への提言として『図書館と知性』という題で、私の意見を述べてみたいと思う。

自衛隊在職中遠洋航海や研修、会議で10回、また退職後は学者として2回ほど外国に行かせて戴いたが、私は訪問国や訪問先の知的レベルや現

在の関心事項を察知するのに本屋と図書館を利用してきた。本屋の店頭には並んだ本の種類と店頭への並べ方からその国民の知性と関心が判断できたからである。冬が長く室内で静思する期間が多いためかスウェーデン人やドイツ人は良く言えば論理的、悪く言えば理屈っぽく、本屋の店頭には比較的高度な専門的な本やイン・ドアーの本（パズルや手芸の本）が多い。一方、アメリカ人は考えることより実行を好むためか、アメリカの本屋には理論的な本よりも「ハウ・ツー」的な本やアウト・ドアーの本（旅行やスポーツ）が多い。また東南アジアや中東などの国では識字率が低いためか、暑いためか漫画本が店頭を圧していた。

また、軍や学校の図書館を見るとその組織の知能程度が理解できるものである。この観点からすれば図書館はその学校の知性の表徴と言っても過言ではない。特に大学などの場合、その蔵書量では知的に勝負が着かぬためかヴァージニア大学はカーター大統領、スタンフォード大学はケネディ大統領などの関係図書・文書・私信などを収集し大学の看板とし誇りとしている。これは日本も同じで都立大学が陸軍元帥上原勇作文書、早稲田大学が創立者で総理の大隈重信関係文書を、そして大東文化大学が海軍調査課の資料を保管し、大学の一つの看板としている。特に大東文化大学は海軍調査課の文書を『昭和社会経済史料集成 海軍史料』として、すでに13巻まで発行し近代史研究者の間で大きな評価を受けている。このような観点から我が母校の図書館に誇れるものがあるであろうか。何等かの特徴ある蔵書を充実し、日本の学会に誇れるものとなる日が来ることを心からお願い致し度い。防衛大学校のプレステージを上げ、学生に誇りを持たせるためにも、そして教官の学会における地位をあげるためにも！

(海上防衛学教室 教授)

## 図 書 館 に つ い て

平 栗 浩 一

私は図書館が「BEST」に更に「EST」を付け足したいくらい大好きである。建物の新旧や司書のおじさんの愛想の有無には関係無く好きなのである。基本的に読書が好きだと言う事もあるが、新たな知識や感動を吹き込んでくれる多種多様か